

網膜症 腎症 神經障害

糖尿病
合併症を招きやすい人の
主な通院
治療を

レーザー治療を受けた。そんなにさんは、あ
失明は免れたが、高血糖の状態が続ければ悪化は避け
られない。本格的なイン
スリン治療が始まつた。

糖尿病と並の合併症だ。高血糖によって全臓器の血管が傷んでしまっており、さまざまな病気を引き起す。中でも、失明につながる網膜症、人工透析につながる腎症、下肢切断につながる神経障害が3大合併症と呼ばれている。

さらに、心筋梗塞や脳卒中を招く心血管疾患、認知症との関係も、糖尿病治療は、合併症を防ぐための治療といつてもいい。

しかし、治療を続けても、合併症が出ないまま夭寿をまといついでいる患者が多い。一方、治療を受けていても合併症を発症する患者もいる。

Kさんは2004年に糖尿病と診断されたが、自覚症状もなく、またもな治療は受けなかった。しかし、5年ほどするといふが見えにくくなってきたため、自宅近くの病院を受診。すぐ近くの網膜で見つかった新生血管を焼いて出血を防ぐために

しかし、Kさんはまだの酒好きで、たばこもやめられない。就業時間が不規則なうえ、独身だったこともあり、食事は深夜にラーメンや牛丼を大力食にする日々が続いた。仕事が運転席に長時間座っていると筋肉が緊張して、体を動かす機会はほとんどない。仕事が立て込んで病院に行けず、治療を中断するなどもあった。

「合併症を発症してしまった患者さんは、『治療を始めるのが遅かった』という人が多い。糖尿病は初期の段階ではこれといった自覚症状が表れないため、治療をせずに様子を見る人が多く、何らかの合併症が発症した段階で診察を受けたくなる傾向

スが少ない、あります。そこで治療を始めて、がわからります。しかし、深刻な合併症に至つてしまつゝのが多くので、糖尿病には『レガシーティフエクト』（遺産効果）があります。イギリスの大規模調査で明らかにされたもので、早い段階から治療を始めてしまつても合併症を招きやすくなる。

かり血糖をノントロールすれば、糖尿病に合併症を起します。糖尿病は眼底出血を起すことがあります。また、治療を始めても、多忙で面倒だから判断したり、血糖が下がりすぎたり、コントロールできた段階で安心して治療をやめてしまふ人も合併症を招きやすくなる。

たといえます。しかし、多忙な中でも、食事はアカ食いを避け、必ず野菜を一品加えて最初に食べるようにしたり、禁煙したり、努力でやるのには少しふもあらわかな」

早期に治療をスタートして、自己判断で中断しない。少しでもいいから生活習慣の改善を継続できるかじかが、分かれ道である。

レーザー治療を受けた。失明は免れたが、高血糖状態が続ければ悪化は避けられない。本格的なインスリン治療が始まった。

アサの「おなかのものができ」とになって表面が破っていることに気づく。しけ、腐敗した組織の下かかし、痛くも痒くもなかなか治まらない状態まったくそのまま放置していると、徐々に大きくなってしまったのでそのままで悪化。それ以上壞疽していると、徐々に大きくなり、が広がらないようになります。そこで、触ると「う」とした感触があったため、親指以外の4本を切斷する手術になった。そのため、現在、歩行りペダリをしてくる病院を受診した。

あやは下肢の血流を回復させるためのカテーテル治療を受けたが、思つたよほど改善しない。それでいれか……」と後悔している。患部がかさぶた

糖尿病と診断されか
ら15年放置した結果、腎
不全の一歩手前で病院に
運ばれ、人工透析を1回
5時間、週3回ペースで
受けたことになった患者
もいる。

「たとえば夜勤があるな
ど仕事が不規則な人は、
どうしても食事や睡眠が
偏り、生活習慣の改善が
ままならないケースが多い。
血糖コントロールが
うまくいかず、合併症が
進んでしまいやすい環境
た。